

命のボタン ～救急の現場にあなたの声を届けるために～

急な病気やけがで倒れたとき、救急隊が迅速かつ適切な処置を行うには、「かかりつけ病院」や「服用中の薬」などの情報がとても重要です。

命のボタン(救急医療情報キット)は、こうした大切な情報を記入した用紙を専用の容器に入れ、冷蔵庫に保管しておく仕組みです。救急隊が駆け付けた際にすぐ確認できるため、観察や処置、搬送先の判断がスムーズになります。

村内では、令和7年3月末時点で93世帯が利用しており、65歳以上の高齢者世帯(224世帯)の42%に広がっています。



利用できる方

- ◎65歳以上の高齢者がいる世帯
- ◎身体の不自由な方がいる世帯

※上記以外にも、健康面に不安のある方はお気軽にご相談ください。

ご相談・お問い合わせは占冠村社会福祉協議会(☎ 56-2700)まで

記載内容の変更や相談

新しく利用を希望される方、または現在利用中で「薬が変わった」「かかりつけ病院が変わった」など、情報用紙の書き換えが必要な方はお問い合わせください。



救急出場状況 (1月分)

交通事故	2件(1人)
労働災害	1件(1人)
一般負傷	24件(24人)
急病	22件(20人)
転院搬送	1件(1人)

1月計 50件(47人)
累計 50件(47人)
※()内は傷病者搬送人員

野生動物対策の状況

農林課林業振興室
野生鳥獣専門員
56-2174

エゾシカ

1月の駆除による捕獲頭数は19頭でした。2月は川沿いや南向きの斜面で食べ物を探すシカをよく見かけます。枝条や地表の何かを食べており、中旬からは樹皮食痕が確認され始めました。今期は樹皮の採食時期が遅い印象です。

ヒグマ

2月17日現在、村内でのヒグマの活動情報はまだありません。ヒグマが冬眠から目覚める時期にはばらつきがあり、3月中にはもう活動しているものもおります。山林ではヒグマの足跡やシカの死骸に注意し、遭遇回避に努めましょう。

今年のヒグマミーティングは2月14から15日の2日間開催しました。新企画「小ぐま会議」では、4つのテーマについ



て参加者がそれぞれの立場から議論しました。また、「ひぐまセミナー」には大勢の方にご参加をいただきました。実施した内容については、次号やホームページにて改めて報告いたします。

◆そのほか

宮下地区で2月にエゾクロテンが建屋内へ侵入する事案がありました。冬から春にかけてのこうした動きは年によって程度に差があり、近年では2020年、2024年に頻発しました。家屋や物置、ごみ置場を隙間なく戸締まりする、換気口など開口部には金網を張る、食べ物や生ごみは屋外に放置しないなど基本的な対策を徹底し、建屋内への侵入や食害を防いでいきましょう。お困りの際は担当までご連絡ください。

1月25日には、帯広市で開催された北海道主催のヒグマ講習会に村から若手従事者3人が参加し、ヒグマの特性や捕獲手法、安全管理について学びました。今後も講習や研修へ参加し、ヒグマ対応への知識、技能向上に努めてまいります。



地域とともに

占冠中学校の探究活動 ～今年度の歩みと次年度への挑戦～

今年度、本校生徒が取り組んできた探究活動(テーマ「SDGsの視点から考える占冠村」)。その活動を振り返り、生徒の成長とさらなる飛躍をめざす次年度の展望をまとめました。

1. 今年度の成果：確かな成長と地域への深い愛着

- 探究活動において、生徒は教室の中だけでは得られない「生きた学び」を経験しました。
- ①伝える力の向上：北海道大学の学生からのアドバイスや教員のサポートを受け、スライドの構成や発表スキルが飛躍的に伸びました。アスペン短期留学では、アスペン生徒に向け、占冠村の紹介と探究内容を英語でプレゼン発表をしました。
- ②多角的な視点の獲得：「自然豊かな村」というイメージから一歩踏み込み、住民の方々の生の声を聞くことで、村が抱える現実や課題にも目を向けられるようになりました。
- ③大きな達成感：大人を相手に自分の意見を伝える難しさに直面しながらも、最後までやり遂げた経験は、生徒たちの確固たる自信へとつながっています。



アスペン短期留学でのプレゼン発表の様子

2. 今後の課題：テーマ設定の難しさと情報活用能力の育成

一方で、より質の高い探究活動にするための課題も見えてきました。生徒の中には「内容が高度で難しかった」と感じる者や、「興味がないことをやらされても意欲が湧かない」という意見があり、テーマ設定が生徒の意欲を左右しています。全ての生徒が「自分事」として熱中できるように、興味関心に寄り添ったテーマ設定やサポート体制をより一層工夫してまいります。

3. 次年度の展望：3年で深める「質の高い探究」

次年度からは、3年間を見通した継続的な探究活動を導入し、学びを段階的に深化させていきます。※右図参照

「質の高い探究」を目指した3年計画の提案
小学校での学習を土台とし、中学3年間で学習の基礎となる資質・能力を段階的に育成する計画を提案します。



4. 地域とともに：未来を切り拓きたくましく生きる子どもの育成

本校では「自然環境保全」や「観光資源活用」といった地域課題の解決に向けて、自ら考え主体的に行動できる人材を、地域とともに育成してまいります。少人数校の特性を生かし、一人一人の個性や可能性に寄り添った教育活動を推進するとともに、地域との連携を一層深めていきます。村民の皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



こちら駐在所です

占冠駐在所
56-2110

融雪期の事故防止 ～ 除雪作業中の事故が多発 ～

適切な時期の氷雪下ろし

寒気が緩んでくると屋根の上から大量の雪が落ちてくる可能性があります。氷雪が屋根からせり出している軒下は危険なので、近づかないようにしましょう。屋根から氷雪が落下する可能性がある場合は、看板やロープ等を設置し、歩行者に注意を促しましょう。



複数による屋根の雪下ろし

例年、屋根の雪下ろし作業中に、はしごや屋根から転落する事故が多数発生しています。雪下ろし作業をするときは、補助者を置くなど複数で行うとともに、ヘルメットや命綱を装着しましょう。

除雪機による作業事故の防止

例年、除雪機による除雪作業中、回転刃(オーガ)に衣類を巻き込まれたり、除雪機の下敷きになる事故が発生しています。除雪機を使用するときは、作業に適した服を着用し、エンジンを掛けのまま雪詰まりを取り除くことはやめましょう。